

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名（佐久穂町立 栄保育園）

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○保育園の玄関、事務所内、各保育室に「保育理念・目標」を掲示して、常に周知して日々の業務に携わっている様子が伺えました。 ○入園しおりには、1ページに明記され、理念を基本に目標を掲げて、毎週の会議で行事や子どもさんたちの様子、虐待等疑いあるケースを確認し合っていました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	○建物は木造建築で、玄関入って直ぐの天井は、ガラス張りでおしゃれな明り取りになっており、それに続く廊下は天井が高く、広々とした建物になっていました。廊下の突き当りは、大きなガラス窓になっており、田園が一望でき、四季折々の風景が楽しめるようになっていました。 ○広い廊下の出窓下には、木造の長椅子が設置されていたり、玉入れがいつでも出来るように遊具が設置されたり、散歩中に採取した昆虫が入ったケースが置かれ、その脇に昆虫図鑑等の本箱も置かれるなど、身近な興味から広がる知識へと工夫されていました。 ○全室にエアコンが設置され、今年の夏は館内でも涼しく、過ごしやすい保育が実現できていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	■ 13	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	<p>○園庭には、ブランコ、三輪車、スクーター、手押し車等の遊具で、元気に遊ぶ姿がみられました。砂場には、日よけの屋根がしっかり貼られて、シャベルで砂をすくい、三輪車の荷台に盛りつけて、遊ぶ姿も見られました。園庭、館内遊びと、それぞれのお子さんが好きな所で自由に遊んでおり、一人遊びを楽しんでいるお子さんを、少し離れた所から見守る保育士の姿がみられました。</p> <p>○危険遊具とされているウンテイやシーソーは、新しい物と交換される手配がされていました。トランポリンは遊戯室に常備され、実際に使用する際は、必ず職員が付いて使用していました。</p>
					■ 14	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	
					■ 15	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	
					■ 16	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。	
					■ 17	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	
					■ 18	せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	<p>○園庭、プール遊びを終えての昼食前には、トイレに、手洗いにと、それぞれが集団の流れで行ない、保育士の大きな声掛けもなく、静かに食事の席に付いていました。</p> <p>○園児からのお替わりの要求にも担任保育士は、自然に対応し、食べられなかった苦手な野菜を食べているお子さんを称賛すると、嫌いな物が食べられるようになった話が次々に広がり、楽しい雰囲気になっていました。</p>
					■ 20	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	
					■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	
					■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	
					■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○園庭では、砂場遊びを楽しんでいるお子さん、ブランコの順番を待つお子さん、大型三輪車、二人乗り三輪車やスクーターを元気に乗り回すお子さん、園庭にある水道で一人遊びを楽しむお子さん等々、自由にそれぞれが自主的に遊んでいました。</p> <p>○遊戯室には、常時使用できるようにトランポリンが設置され、舞台にはおしゃれなスポットライト、舞台裏には紙芝居も豊富に準備されていました。</p> <p>○広々とした廊下には、散歩中に捕ってきたカブトムシと、オニヤンマが入った少し大きめな虫ケースが置かれていました。子どもさんの目線で見やすい高さに置かれ、直ぐに隣りに置かれた図鑑で調べられるようになっていました。</p> <p>○保育園前のお宅から、田んぼの提供を受けて、年長組の園児で田植えから、収穫まで毎年行なっていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○お散歩カートを使用して、散歩に出るようにしていました。周りには緑も多いので、環境にも恵まれ気持ち良く散歩が出来るとのことでした。</p> <p>○登園してきた際に、表情や雰囲気を観察して、親御さんからの情報も聞き取っていました。</p> <p>○子どもさんへの声掛けを積極的に行ない、関わっている様子が伺えました。カーペットや畳の上で伸び伸びと過ごせるようになっており、特に口に持っていく玩具の消毒にも十分配慮していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価	着目	点	コメント
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を立ちをけている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○室内の片隅に、探索が出来るようにクッションのシートで迷路のような遊び場が作られていました。</p> <p>○訪問した日には、部屋続きに外に出られるように、日差しを遮るシートで屋根を作り、日陰にした野外で泥遊びをしていました。子どもさん達の楽しく遊ぶ声が、響き渡っていました。全身泥だらけにして遊んでいるお子さん達を、危険のないように見守り、笑顔で真剣に対応している保育士の姿を確認できました。</p> <p>○泥遊びの後には、お湯のシャワーを浴びて、着替えが出来るように配慮されていました。</p>	
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○近隣住民から田んぼの提供を受けて、お米作りを実践していました。田植えから収穫までを体験して、11月には収穫祭を開催し、地域との交流を深めていました。</p> <p>○園庭の片隅には、枝豆、ポップコーン、ミニトマト、じゃがいもなどを栽培して、収穫した野菜で8月には、カレーを作って保育園全体で楽しんでいました。</p> <p>○最近行なわれたカレー作りの様子を写真に撮って、玄関先のボードに貼り出して、登園、降園時に保護者に伝えるように工夫されていました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○加配保育士を配置して、手厚い対応がとられ、障がいをお持ちのお子さんの自主性を大切に、関わりや見守りを行っていました。</p> <p>○「オンリーワン支援事業」が年間2回、「こころ育ち相談」が年間8回設けられ、行事計画予定表にも謳われていました。初回は、全員の保護者に面談を行ない、その後は希望者に面談を行っていました。</p> <p>○就学相談も実施され、保護者の意見を聞き取りながら、教育委員会とも連携して、その後に繋げていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■	59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。
					■	60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。
					■	61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。
					■	62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。
					■	63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。
					■	64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。
					■	65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	■	66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。
					■	67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。
					■	68	保護者が、小学校以降の子どもたちの生活について見通しを持てる機会が設けられている。
					■	69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。
					■	70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。
							○毎週土曜日は希望登園日として、町内にある3つの保育園合同で行ない、場所は栄保育園に設けられていました。年間2回の3園合同会議も開催されていました。 ○延長保育に使われていた部屋は、普段クラスとして使われているので、専用部屋を作っていく旨を園長自ら提案し、今後は専用の部屋を用意することが決まっていました。 ○異年齢が使用するので、消毒等衛生面には配慮がされ、保育士間の引継ぎもしっかり行なわれていました。 ○連絡ノートの活用も行ないながら、できるだけ保育士から保護者に様子が伝わるようにしていました。
							○地元の小学校の運動会に参加したり、小学生が保育園を訪れて、音楽を披露したり、一緒にゲームを楽しんだりして交流していました。 ○バスを準備して、年長児全員で小学校を訪問し、各クラスに入って学校体験を実施していました。 ○就学に向けた連携が図られていました。特に佐久穂町で力を入れているオンリーワン支援事業も活用されていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○佐久穂町には、計画の基本目標として子どもの心身について、次世代を担う子供の成長するために親や家庭、保育所、学校、地域団体が、それぞれの役割をもって機能されていました。</p> <p>○登園時に顔色や表情、からだの怪我について、保護者とやり取りして確認していました。</p> <p>○クラスの担当以外にも、全職員が園庭などの様子を把握して、危険行為のないように見守っていました。</p> <p>○口・手拭きハンカチは、通年毎日3枚持参して、感染予防に心掛けていました。</p> <p>○午睡時の乳幼児突然死症候群の安全確認は、0歳児は5分ごと、1.2歳児は10分ごとに行っていました。</p>	
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○身体測定は毎月、内科・歯科は年2回、眼科・耳鼻科検診も年度初めに実施されていました。その後の治療が必要な園児については、保護者に伝えて治療を促していました。</p>	
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー疾患の子どもの対応は、マニュアル化されており、入園時の際に調査を行なって、お盆や食器の色分けがされていました。</p> <p>○医師の指導のもと、保護者からアレルギーの状態を聞き取り対応していました。</p> <p>○アレルギーの子どもには、できるだけ見た目が同じ食事になるように配慮し、入園時には偏見を持たないように、保護者への説明も行っていました。</p> <p>○佐久穂町全体では、園長及び主任保育士の研修を行ない、マニュアルに沿って知識・情報を習得していました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 		<p>○子どもたちの希望により、園庭が見える広い廊下での食事が行なわれていました。子どもたちが庭で作った野菜を使ったカレー作りも行われていました。</p> <p>○子どもたちは、自分たちが作った野菜を使ったカレーを楽しんで食べていました。</p> <p>○一緒に食事をした時には、具だくさんの汁に「嫌いなナスが食べられたよ」と、笑顔で話しかけてくれました。担当保育士に「いろんな物が食べられるようになったね」と褒められていました。</p> <p>○家庭には、献立表が毎月配布され、家庭でも作られるようにレシピの記載もありました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 		<p>○今年から委託になりましたが、委託先と協力して「給食だより」「たのしく食べようニュース」などが、子どもたちが興味をもてるような、わかりやすい工夫がされていました。</p> <p>○たのしくたべようニュースには、絵や図が多く盛り込まれていて、県産のアスパラガスや夏野菜の紹介がされていました。なぜ朝ご飯を食べるのかなど、子どもと楽しみながら、食育ができる工夫がされていました。</p> <p>○お替わりは積極的に行ない、残飯は、殆んど確認ができませんでした。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	■ 104	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	○家庭との連絡は、連絡帳、園だより、クラスだより、オクレンジャーで行なっていました。
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	■ 105	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	○「子ども・子育て支援計画」には、5ヵ年計画に町の保育内容が記載され、保護者の理解を得る機会を設けていました。
					■ 106	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。	○連絡ノートに記載されている意見や要望は、園長・主任保育士に伝えて、それぞれ解決に向けて対応されていました。必要に応じて、全職員への周知も行なっていました。
					■ 107	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	
					■ 108	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	○園の内容は、玄関脇にボードで行事の写真や、子どもの作品が飾られ、楽しい園生活が伝わるような工夫がされていました。
					■ 109	保護者等からの相談に応じる体制がある。	○園長、主任保育士は、保護者の相談に応じる体制ができていました。
					■ 110	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	○保護者からの相談は、園長、主任保育士だけでなく、全職員が共有し、適切な支援が行なわれるように職員会で検討されていました。
					■ 111	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。	
					■ 112	相談内容を適切に記録している。	
					■ 113	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着点	コメント
			<p>② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○長野県市町村児童虐待対応マニュアルに沿って、家庭での養育状況を把握するために、子どものからだの状態や心身の状態の把握に努めていました。</p> <p>○職員が、からだの傷・過剰な食欲・不審な行動などに気づいた時は、速やかに園長、主任保育士に連絡し、職員会で情報の共有を行ない、行政に繋げる体制がありました。</p> <p>○職員の虐待・権利侵害は、県・市町村の研修に参加したり、園内での勉強会が行なわれ、虐待・権利侵害に対する理解を深める取り組みがされていました。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	<p>① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育士の自己評価の取り組みは、年1回行なわれています。正職以外の保育実践は行なわれませんが、町として来年度から自己評価を行なう取り組みが予定されていました。</p> <p>○自己評価を定期的に行なうことで、保育の質の向上に繋がり、専門性の向上の取り組みが行なわれていました。</p> <p>○園長・主任保育士は、自己評価に向けてのアドバイスや専門性の向上に繋がる指導をされていました。</p>